

## 国語科学習指導案(第5学年)

指導者 増谷 悠子

- 1 日時 平成26年11月26日(水) 第5限
- 2 学年 第5学年 男子2名 女子3名 計5名
- 3 単元名 作品を自分なりにとらえ朗読しよう
- 4 教材名 大造じいさんとガン
- 5 指導にあたって

本教材は、中心人物である狩人「大造じいさん」がガンの頭領「残雪」とのかかわりによって、価値観や生き方を見つめ直す物語である。残雪のもつ知恵と勇気、統率力のすばらしさと、残雪の命がけで仲間を救う姿、傷ついて最期の時でも敵を前に堂々とした態度に心を打たれ、感動をもって対している大造じいさんの心情の変化が生き生きとドラマチックに描かれている。

本単元では、初めて「朗読」を学習する。中学年までの音読の基礎（作品の内容を理解し、音読の工夫をすること）から、高学年ではより深まった読解と結びつけ、作品を自分なりにとらえて表現することになる。

場面の転換や物語の山場での細かい行動描写や、豊かな情景描写から中心人物の心情の変化をしっかりと読み取らせたい。そして、優れた叙述や主題について自分なりの考えをもち、朗読に生かしていけるように、単元を通してためあてをしっかりとらせたい。

### 【授業づくりの工夫】

#### ○焦点化（シンプル）

- ・初発の感想から、単元を通してためあてをもたせ、目的意識を高める。
- ・指導のねらいに沿った叙述を効果的に扱うために、1つずつの視点に絞って読み進める

#### ○視覚化（ビジュアル）

- ・センテンスカードを使って着目する叙述を明確にし、それぞれのつながりや流れをとらえさせる。
- ・登場人物の心情の変化を、初め・きっかけ・終わりの3観点で図式化してまとめる。

#### ○共有化（シェア）

- ・読み取ったことやまとめをペアで話し合い、自分の考えを説明し合うことで学び合う。
- ・自分なりに読み取ったことをもとに朗読し合い、お互いの感想を交流する。

### 6 単元の目標

- ◎ 優れた表現を味わいながら読み、叙述について自分の考えをまとめ、自分の思いや考えが伝わるように朗読する。
- ◎ 書いたものの表現の効果などについて確かめたり工夫したりする。

7 単元の評価規準

【関心・意欲・態度】

○文章から読み取ったこと、自分なりに感じたことや考えたことをもとに、朗読しようとしている。

【読む能力】

○登場人物の心情を、会話や心情表現、行動を表す文や語句に着目して読んでいる。  
 ○場面についての描写など、優れた叙述について自分の考えをまとめている。  
 ○自分の思いや考えが伝わるように、工夫して朗読している。

【書く能力】

○書いたものの表現の効果などについて、確かめたり工夫したりしている。

【言語についての知識・理解・能力】

○言葉や表現に気をつけて、様子を想像している。

8 指導計画（全10時間）

次	学習活動	・指導上の留意点 ☆個への配慮 ◇評価規準
一 (三時間)	○職業（仕事）について話し合う。 ○前書きの範読を聞き、猟師の生活や物語の設定・イメージをとらえる。 ○題名からどんなお話を予想する。	・キツザニアでの体験や中学生の職業体験の発表を思い出させ、働くことの意味や苦勞について考えさせる。 ・子どもたちにとってなじみが薄い時代や仕事であるため、補足説明をしたりしておく。 ☆わからない語句は、辞書で意味を調べさせておく。 ◇猟師の仕事に関心を持ち、題名から物語を想像している。
	○全文の範読を聞き、初発の感想をもつ。 ○感想を出し合い、単元を通したためあてをとらえ、学習の見通しをもつ。	・観点ごとに初発の感想をまとめさせ、単元を通したためあてにつながるようにする。 ◇物語の概要をとらえて、感想をもっている。 ・椋鳩十の他の作品などを学級にそろえ、読書環境を整えておく。
	○場面の設定などを読み取り、表にまとめる。 ○場面ごとの出来事（大造じいさんの作戦など）を見出しにまとめる。	・「この物語は何年間のお話だろうか。」をさぐることで、場面・時・場所・登場人物・出来事について確認する。 ・さし絵を参考に、各自で見出しを考えさせる。 ☆話し合いながら、各自のまとめを尊重する。 ◇作品の設定、場面の移り変わりをとらえている。

二 (五時間)	○会話文の変化から、大造じいさんの心情の変化を読み取り、作戦に込められた気持ちの高まりをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの会話文のカードを提示し、順番を考えさせることで、心情の変化とそのきっかけを読み取らせる。</li> <li>☆会話文の後に続く部分を付け足して提示し、心情の変化を読み取りやすくする。</li> <li>◇会話文から心情の変化をとらえ、気持ちの高まりについてまとめている。</li> </ul>
	○情景描写から、大造じいさんの心情の変化を読み取り、情景描写の効果についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文と行動描写の間にある文に着目させ、情景描写について知らせる。</li> <li>・その文がある時とない時を比べ、情景描写にも心情が表れていることをとらえさせ、効果についてまとめさせる。</li> </ul>
	○ <b>1</b> <b>2</b> の場面での残雪に対する大造じいさんの心情を地の文から読み取り、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残雪の行動や様子とそれに対する大造じいさんの心情を直接表す叙述を読み取り、気持ちの移り変わりをまとめさせる。</li> <li>◇心情表現に着目して、気持ちの変化をとらえている。</li> </ul>
	○クライマックス場面における大造じいさんの行動について考える。 ○心情の変化を <b>初め</b> ・ <b>きっかけ</b> ・ <b>終わり</b> の図に表し、一文にまとめる。(本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大造じいさんのおとり作戦での行動を考え、残雪をうたなかった理由を話し合わせる。</li> <li>☆ペアで音読したり話し合ったりして、確かめさせる。</li> <li>◇言葉や表現に気をつけて、様子を想像している。</li> <li>・心情の変化を図に表すことで、きっかけがクライマックスになっていることをとらえさせる。</li> <li>◇中心人物の行動から、心情の変化をとらえている。</li> </ul>
	○終末部の大造じいさんの行動について自分なりの考えをもつ。 ○作品の主題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大造じいさんの生き方をふり返り、終末部での大造じいさんの行動について自分なりの考えをもたせる。</li> <li>・作品の主題について、大造じいさんの決断や残雪のリーダー性など、自分なりの考えをもたせる。</li> <li>◇読み取ったことをもとに、自分なりの考えをもっている。</li> </ul>
三 (二時間)	○自分の好きな場面の朗読のしかたを考え、工夫して練習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気に入った叙述をもとに場面を選ばせる。</li> <li>◇自分なりに読み取ったことを生かして、工夫して練習をしている。</li> </ul>
	○朗読発表会をする。 ○感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりのとらえ方に自信をもって発表させる。</li> <li>◇自分の思いや考えが伝わるように朗読している。</li> <li>・お互いの朗読を交流することで、それぞれの感じ方を認め合わせる。</li> </ul>

9 本時の目標

○クライマックス場面での中心人物の行動について考え、心情の変化をとらえ、まとめることができる。

10 展開

学 習 活 動	・指導上の留意点 ☆個への配慮 ◇評価
○三の場面後半から音読し、本時の課題をもつ。	・「おとり作戦実行」場面から、心情の変化をさぐるという課題をもたせる。
○おとり作戦で大造じいさんが残雪をうつチャンスを逃した理由について考える。 ＜2回のチャンス＞ ①ぐっとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。 (その時の残雪の行動について考える。) ②残雪は、もうじたばたさわぎませんでした。 (その時の残雪の行動について考える。)	・センテンスカードを提示し、残雪をうつチャンスが2回あったことを明確にする。 ☆ペアで音読したり話し合ったりして、残雪をうつチャンスを無駄にした理由を考えさせる。 ◇言葉や表現に気をつけて、様子を想像している。 ＜発言・ワークシート＞
○大造じいさんの心情の変化を図に表す。 初め (一の場面から考える。) 終わり (四の場面から考える。) きっかけ (クライマックスでの大造じいさんの行動をふり返る。)	・前時のプリントをもとに初めの気持ちを考えさせる。 ・終わりでは四の場面での大造じいさんの会話文に着目させる。 ・きっかけは、残雪をうたなかった理由と同じであることに気づかせる。 ◇中心人物の行動から、心情の変化をとらえている。 ＜発言・ワークシート＞
○大造じいさんの心情の変化を一文でまとめる。	・「初め～だった大造じいさんが～をきっかけに終わりに～になった。」の文型を提示する。 ☆ペアで確かめ合い、自信をもたせる。
○次時の課題を知る。	・「主題についてさぐる」ことを予告し、自分なりの考えがもてるように促す。